

教育事務所だより

平成 30 年 12 月 25 日発行

学びの深(進)化プロジェクト事業～松江市立湖北中学校の取組から～

学びの深(進)化プロジェクト事業は、自校の育てたい子ども像から必要な資質・能力を明らかにし、子ども像の達成に迫るための総合的な学習の時間のカリキュラムを編成し、「課題設定～情報収集～整理・分析～まとめ・表現」といった探究のサイクルの中で、学ぶことの意義が実感できる、学ぶことと自分の人生や社会とのつながりを実感できるプロジェクト学習を展開し、本県において学力の定義とする学ぶ力・学んだ力を育むことを目的としています。

本事業の指定校である松江市立湖北中学校では、昨年度、総合的な学習の時間を中心とした単元配列表の作成を通して、各教科で育てたい資質・能力を明確にされました。2年次となる今年度は、総合的な学習の時間が探究のサイクルの中で学ぶ時間となるよう、見直しに取り組みられました。当初は、1年生での職場訪問、2年生での商人体験、3年生での職場体験を、「どのような資質・能力を育成するために、この活動を実施するのか」を十分に整理せず、活動ありきで実施してきたことから、職場訪問でもった課題を、商人体験、職場体験での実践、改善を繰り返して探究していくサイクルに再構築されました。また、学校教育目標、めざす生徒像、総合的な学習の時間でめざす生徒像、総合的な学習の時間の目標の関係を整理し、育てたい資質・能力との関連をふまえた全体計画を作成されました。

次の表は、松江市立湖北中学校の「総合的な学習の時間 全体計画」の一部です。

テーマ		未来と社会につながる自分		
学年		第1学年	第2学年	第3学年
探究課題	自己課題 未来を切り拓くための自己の在り方	よりよい集団生活を送るための自分の在り方	社会で力を発揮するための自分の在り方	将来の社会生活に向けての自分の在り方
	地域課題 地域を切り拓こうとする人々の思いと自分の在り方	地域の実態と良さ、そこに住む人々の思い	地域の食や産物、それに込められた人々の思い	地域の産業や職業、それに関わる人々の思いと自分の在り方
主な学習活動		<ul style="list-style-type: none"> 地域の職場を訪問し、地域の願いや課題を知る。 職場訪問を通して自分の役割に気づき、課題の解決に努め、自己の能力を伸ばす。(職場訪問など) 	<ul style="list-style-type: none"> 地域の特産物やその特徴、生産者の思いを知る。 販売活動をする上で自分が果たすべき役割に気づき、課題の解決に努め、自己の能力を伸ばす。(修学旅行など) 	<ul style="list-style-type: none"> 自己を見つめ、強みと弱みを認識し、課題を設定する。 職場体験学習を通して課題の解決に努め、自己の能力を伸ばす。 自分がふるさとに貢献できることを考える。(職場体験学習など)

平成 31 年 1 月 29 日(火)には、事業成果発表として、第 1 学年探究課題「地域課題」の「まとめ・表現」場面を公開されます。第 2 学年の探究につながる新たな課題を発見するための「まとめ・表現」になるよう計画しておられます。1月上旬には、ご案内をいたしますので是非多数ご参加ください。

算数授業改善推進校事業 3年次の取組

「算数の勉強が好きだ」という子どもを増やすことをねらいにスタートした本事業も、3年目を迎えました。松江市立古江小学校、安来市立社日小学校を推進校として、「子どもの声でつくる算数授業づくり」に取り組んでいます。

今年度は、それぞれ3回の授業公開があり、管内への普及が図られました。どの授業でも、何とかして問題を解決したい、自分の考えを伝えたいという子どもの姿がたくさん見られました。

子どもの声でつくる算数授業

- 子どもが「算数の勉強は好きだ」「問題を解いてみたい」と思う授業
- お互いの考えを伝え合うなど、それぞれの考えが深まっていく全員参加の授業
- 子どもが考えること、やりきることを楽しむ授業

児童が主体的に学習に取り組むための工夫

安来市立社日小学校の公開授業の一つは、6年「資料の調べ方」で、8人の100m走のデータから、最強のリレーメンバー4人を選ぶという学習でした。

100m走1回の記録では、4番手候補の3人が同タイムのため、子どもたちから「もっとデータがほしい。」という声が上がります。さらに、100m走5回、10回のデータを提示しますが、平均タイムが同じになるように数値が設定してあるため、子どもたちは、平均タイム以外を決め手にして考え始めます。

既習の柱状グラフやドットプロットなどを利用して、記録の散らばり具合等を考えていきます。「Dさんは記録が真ん中に固まっているから・・・」「Fさんは最低の記録が2度もあるから・・・」などと、自分の視点を根拠に4人目を選び、お互いに意見を交わしていきました。

児童がお互いの考えを深めるための工夫

松江市立古江小学校の公開授業の一つは、6年「速さ」で、道のりも時間も違う2種類の動物の速さを比べる学習でした。

前半の自己内対話の場面では、数の操作だけでなく、数直線図などを活用して計算の意味を具体的に表現しようとしていました。

ペア対話では、「私はmをそろえたよ。」「じゃあ、私とは逆だね。」といった会話のように、お互いの考え方の妥当な部分を認め合ったり、共通点や相違点を明らかにしたりしました。

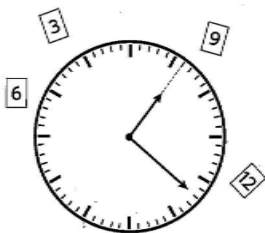
全体対話は、まだすっきりしていない子どもやペア対話ですっきりした子どもの声から始まりました。「もう1回言って。」「もうちょっと質問だけど・・・」「これもいいんだけど・・・」といった声がたくさん聞かれました。子どもたち同士で分かり合おうとする話し合いが続き、お互いの考えを深めようとしていました。

しまね数リンピックの問題を活用してみませんか？

【4】 次のツヨシ君の夏休みの日記を読んで、(1)、(2)に答えましょう。

8月△日(木)

今日、遊びに出かけたときに、近所の時計屋さんがお店の前の大きな時計を新しくしていました。数字の文字盤を取り付ける前の状態であったので、下の図のような時計が地面に置いてありました。

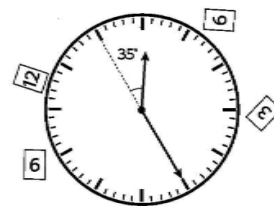


(1) この時、大きな時計の時刻は何時何分でしょう。
考え方も記入して、答えましょう。

(7点)

8月□日(金)

今日も時計屋さんの前を通ると、昨日の作業を続けていました。大きな時計はまだ取り付けていませんでしたが、時計の針は昨日とは違って、下の図のようになっていました。時計屋さんは時刻がわからなくなって困っていました。そこで、ぼくは時刻を教えてあげました！



(2) この時、ツヨシ君が教えてあげた時刻は何時何分でしょうか。
考え方も記入して、答えましょう。

(7点)

平成30年度しまね数リンピック(小学校の部)より

今年は、松江、安来両市から合計338人もの参加がありました。子どもたちの中に、「考えることは楽しい」という思いがあることの表れだと受け止めています。

先生方は、数リンピックの問題をご覧になったことがありますか。単元末の発展的な指導として、家庭学習の課題としてなど、様々な場面で活用することができます。

中学校の部の問題に、小学生が挑戦できるものもありますし、小学校の部の問題に、中学生が頭をひねってしまうようなものもあります。4年生以下の子どもたちが挑戦できる問題もあります。ぜひ一度、「ポータルサイト」をのぞいてみてください。

「主体的・対話的で深い学び」の実現に向け学校図書館の活用を！

～学校図書館活用教育研究事業の取組～

学校図書館活用研究事業は、児童生徒の情報活用能力及び思考力・判断力・表現力の育成をめざし、学校図書館を核とした教科等横断的なカリキュラムの研究・実践を目的としています。この事業では学校司書の勤務時間を通常の時間に加えて年間最大 360 時間（1日あたり 2 時間）増やしており、指定校では、「朝読書の時間にも来てもらえる」「放課後に授業の打ち合わせができるようになった」など効果的に活用されています。

平成 30 年度、松江教育事務所管内では、安来市立伯太中学校、安来市立十神小学校、松江市立島根小学校の 3 校を研究指定校とし、さまざまな取組をしていただいています。



指定校の公開授業の様子

安来市立伯太中学校

10 月 18 日、11 月 15 日の 2 回にわたって 2、3 年生の総合的な学習の時間の授業が公開されました。3 年生では、地域の防災をテーマに、それぞれの課題解決に必要な情報を収集、整理・分析する過程において学校図書館が活用されています。各教科等で身に付けた情報活用のスキルが総合的な学習の時間の学びに生かされ、いきいきと活動する生徒たちの姿を見ることができました。

松江市立島根小学校

10 月 24 日、4 年生国語科「ごんぎつね」の授業が公開されました。

リテラチャーサークル（役割を決めて物語を読む手法）による読み取りや、その読み方を生かして新美南吉の他の作品を読んで心に残ったことを伝える活動など、今後の読書につながる提案が盛り込まれていました。

2 回目の公開授業は 1 月 22 日の予定です。

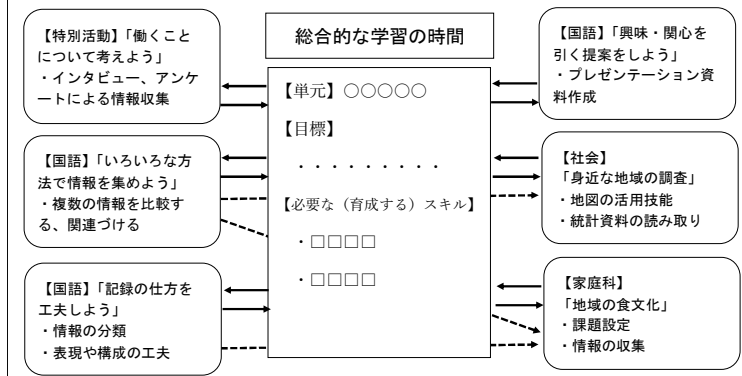
安来市立十神小学校

11 月 28 日、5 年生総合的な学習の時間の授業が公開されました。

十神小は、本事業 5 年目の取組で「平成 30 年度子供の読書活動優秀実践校文部科学大臣賞」も受賞されています。司書教諭、学校司書、学年部が連携し、教科横断的な単元構成表を作成するなど、計画的に学校図書館が活用されています。

2 回目の公開授業は 1 月 30 日の予定です。

単元構想モデル例



※参考文献：門脇久美子・実重和美・漆谷成子・堀川照代著(2014)『学校図書館は何ができるのか？その可能性に迫る』国土社 p105 より作成

しまねの教育情報 Web「EIOS(エイオス)」をご覧ください！ (<http://eio-shimane.jp/>)

※下記のそれぞれのサイトのリンクが貼ってあります

○しまね数リンピックの問題

島根県教育用ポータルサイト→幼稚/小・中学校>教育指導課>学力育成>しまね数リンピック

○学校図書館活用教育研究事業の成果 (H26～H29 年度指定校)

子ども読書県しまね（島根県立図書館 HP）→学校図書館>学校図書館活用研究事業の成果

一人一人のあり方や生き方を認める心の醸成を

文部科学省は、性同一性障がい児童の小学校受け入れ報道を機に、教育相談の徹底や学校での対応状況調査を行い、具体的な配慮事項をまとめました。そして、平成28年4月「性同一性障害や性的指向・性自認に係る児童生徒に対するきめ細かな対応等の実施について（教職員向け）」として出しています。教員に行った調査(2010~2011年)の中で、小学生の受け入れや平成22年4月通知（児童生徒が抱える問題に対する教育相談の徹底について）などの報道に関心を持っているとの回答は約6割ありましたが、「知らない」の回答も約3割見られ、また、「性同一性障がいのような事例は稀なこと」と約半数の教員が答えているそうです。

セクシャルマイノリティの呼称の1つとして「LGBT」の言葉が用いられますが、性的指向(人の恋愛・性愛がどういう対象に向かうのかを示す概念)、性自認(性のアイデンティティ=性同一性を自分の感覚として持っているかを示す概念、「こころの性」とも呼ばれることもある)は誰もが持っている要素で、「LGBT」だけで表すことはできません。そこで、性的指向(Sexual Orientation)と性自認(Gender Identity)の頭文字を取って「SOGI(ソジ)」と表現されることもあります。

民間調査によれば、自身が「LGBT」をはじめとするセクシャルマイノリティであると答えた人が8%あり、これは12~13人に1人の割合となります。このことから、どのような学校、職場にも性的指向や性自認に違和感を持った人がいると考える必要があります。それは見えにくい存在であり、外見からはわかりにくいです。岡山大学ジェンダークリニック調査(1999~2010年の性同一性障がいの受診者、成人含1,167人)では、性別違和感を自覚し始めた時期として“小学校入学以前56.6%”という結果があります。そして、中学校卒業までに9割近い子どもたちが違和感を自覚したと答えています。しかし、性別違和感を持つ児童生徒はその違和感や悩み・不安などを隠そうとする傾向があり、家族や先生にも打ち明けていない状況があります。このような子どもたちの発する信号を学校はキャッチすることが重要です。

まずは日頃から子どもたちに対して偏見を持った言葉を発したり、態度を見せたりしないことなどで、子どもたちが安心して話せる雰囲気醸成を怠りません。そのためには教職員どうして「男らしく・・・」「女なんだから・・・」といった男女の伝統的な区別や役割分担などについて考えたり、“当たり前”“普通”に感じている生活習慣や価値観について話し合ったりすることが大切です。多様な性のあり方を含めた様々な『多様性』を尊重した言葉や態度を通して、子どもたちや保護者との豊かな人間関係を築きましょう。

特別支援教育支援専任教員について Q&A

Q. 特別支援教育支援専任教員とは？

A. 小・中学校の先生からの特別支援教育に関する相談に、電話一本で迅速、継続的に相談に応じます。

Q. 連絡先は？

A. 松江教育事務所内
担当：中島恭子
(0852) 32-5791
(専用電話)

特別支援教育支援専任教員より

これまでも多くの管理職、特別支援教育コーディネーター、担任の先生方から連絡をいただきありがとうございました。これからもお気軽に連絡をいただければと思っております。
引き続きよろしく願いたします。



Q. これまでにどんな相談がありましたか？

A. 【通常学級】

- ・落ち着かない児童への対応について
- ・読み書きに苦手がある子どもの指導について
- ・全ての子どもの学びにつながる授業について
- ・校内体制について 等

【特別支援学級】

- ・各教科等を合わせた指導、自立活動について
- ・進路について
- ・校内での連携づくりについて
- ・保護者との関係づくりについて 等